

令和6年度岩手県性教育研修会の活動報告

岩手県性教育研究会
会長 佐藤 恵

1 はじめに

今年度は、性に関する指導における集団指導と個別指導についての考え方と進め方を学んだり、各校種の実践発表から普段抱えている思いや悩みを共有したりする機会を設けました。

2 研修会の開催

(1)期 日

令和6年10月6日(日)

(2)会 場

岩手県立不來方高等学校

(3)テーマ

～子どもたちの心に寄り添う性教育の進め方について～

3 研修会の内容

(1)基調講演

「岩手県性教育研究会の歩み」

岩手県性教育研究会会長 佐藤 恵



県性研発足の経緯、宿泊研修や3回の全国大会開催などを通して充実した研修が長年行われてきたことに触れ、子どもの健やかな成長発達のために大切な大人の役割について提案ができた。

(2)実践発表

○花巻市立桜台小学校 元校長 佐藤 恵

「先生、卵子と精子はどうやって一緒になるんですか？」～子ども達の疑問にどう応えるか～

○岩泉町立岩泉中学校 教諭 高橋 拓暉

「性に関する実態調査と中学校現場の課題」

○県立不來方高校 指導養護教諭 千田 雅子

「学校の役割と生徒の実態を見極めながらすすめる性に関する指導」

(3)講演

「保健教育としての性に関する個別指導について」

全性連理事長 野津 有司

保健教育での個別指導とは、「一人一人の資質・能力を高めていくことを念頭に、基礎的・基本的な知識及びスキルの習得も含め、児童生徒が自身の課題を解決できるようにするための指導」であること。

指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることに配慮することが大切であるとされていること。

集団指導で学習した知識を補完したり発展させたり、また配慮を必要とする児童生徒により細やかに寄り添ったりすることができる個別指導を充実することは有意義なことであること。



4 成果と課題(参加者の感想から)

○野津先生の講演で、「自分らしさやその人らしさを皆が認め合うこと」とお話しくださったことに納得した。

○多感な時期の小中学生に指導することに不安を感じていたが、子どもたちがどんなことに興味があるのか教員ができることは何かを考えることができた。

○指導の際、どんなふうに扱えばよいのか、言葉の選び方や表現の仕方等どんなことが大切なのかを学ぶことができた。

○小学校での性教育について、学年別の指導事例があれば参考にしたい。毎年これでもいいのか悩んでいる。

○妊娠や性被害に遭ったときの相談対応マニュアルの様なものがあれば有難いと感じた。

5 おわりに

全性連のお力添えをいただき、無事研修会を終えることができ、改めて性教育の重要性を再認識しました。今後は、参加者のニーズを把握しながら、より実践的で充実した研修会の企画を工夫したいと思います。

今後ともよろしくお願ひいたします。

岩手県性教育研究会
会長 佐藤 恵

1. はじめに

性に関する指導においては、自分と他者を大切にする生き方の教育に加え、現代的で多様化する課題が加わり、いつどのように実践することが子どもたちの豊かな人間形成に向かうのか困惑する日々を繰り返している。

さて、岩手県では4年ぶりに活動を再開し、まずは教育者にとってニーズの高い内容を企画し、会員集めから再スタートした。

2. 研修会の開催

- 期 日 令和5年10月28日（土）
- 会 場 岩手県立不来方高等学校
- テーマ

～子どもたちが生命を尊び、幸せを感じることができる性教育を求めて～

3. 研修会の内容

○基調講演

「岩手県性教育研究会の歩み」

岩手県性教育研究会会長 佐藤 恵



県性研発足の経緯、小中高の多くの教諭と養護教諭がともに学び質の高い研修が行われてきたこと、毎年の研修会はもとより全国大会をこれまでに3回開催したことなどに触れ、今後の方向性について提案ができた。

また、性教育の実践者として、子どもたちが変わっていく様子を紹介し、改めて性教育の重要性を確認する機会となった。

○講演

「今、学校に求められる性に関する指導」

全性連 理事長 野津 有司 氏

学習指導要領に「心身の健康の保持増進に関する教育のイメージ」に「個別指導」が盛り込まれた。そこで、保健教育としての性に関する個別指導の在り方について示唆に富んだ内容を拝聴し、性教育を進めるイメージが膨らんだ。

○講義・演習

「性別違和を感じている児童生徒への対応
～仮想職員会議で話し合おう～」

全性連 理事長 野津 有司 氏

《場面設定》

性別違和を感じている児童または生徒が、養護教諭に相談した。これを受けて「安心して学校生活を送るためにはどのように関わっていくのが良いのか」を職員会議で話しあう。



グループ毎に役割を決めて仮想職員会議で話し合いをした。野津氏は、「困り事やつらさを相談しやすい関係性づくりと環境づくり」が重要と話された。

4. 参加者の感想

- 学校現場ですぐに実践できる内容だった。普段からの相談しやすい雰囲気づくりが大切だと改めて気づかされた。
- 生徒が何に困り、どうしてほしいのか把握し、安心できる方法を共に考える姿勢・関係づくりが大切だということを学ぶことができた。
- 今後は、集団指導や個別指導を効果的に行うための留意点等について研修したい。



5. おわりに

全性連のお力添えをいただき、無事研修会を終えることができた。今後は会員数を増やし、より実践的で充実した研修会の企画を工夫したい。今後ともよろしくお願ひします。